

令和8年度在外公館長表彰式（第1回）：大使挨拶

本日は、令和8年度第1回在外公館長表彰授与式をこのように開催できることを大変嬉しく思います。

今回は、日本とブラジルの協力関係の構築に特別な貢献をされた個人としてヴォルネイ・ヴォルフ氏を、団体としてブラジル環境・再生可能天然資源院を表彰いたします。

それでは、受章者の功績を紹介いたします。

ヴォルネイ・アパレシード・ヴォルフ・バヘイロス氏は、長い期間にわたり、防災分野における日本とブラジルの協力関係の構築に貢献されています。2013年から5年間実施された GIDES プロジェクトでは、斜面对策調査計画マニュアルのプロジェクトコーディネーターとして尽力されました。現行の SABO プロジェクトでは、立ち上げ時はコーディネーターとしてプロジェクトを軌道に乗せるために尽力され、現在ではプロジェクトダイレクターとして総括的な立場からプロジェクトに貢献されています。ヴォルネイ局長の強いリーダーシップのもと、ブラジルで初となる砂防堰堤のパイロット施

工の目処が立ったことは、特に大きな功績です。更に、2025年3月のルーラ大統領訪日に合わせて政府間で署名された水防災分野における協力覚書に基づき、国家市民防衛局長として、両政府による防災技術対話の開催など、日本とブラジルとの協力関係を牽引されています。気候変動による災害の激甚化・頻発化という課題に共に取り組むパートナーとして、防災分野における両国の協力は、今後ますます重要となります。今後も、日本とブラジルの協力関係の更なる深化のためにご活躍されることを期待しています。

ブラジル環境・再生可能天然資源院は、アマゾン森林伐採抑止に取り組むパートナーとして、日本とブラジルの協力関係の構築に貢献されています。2009年から2012年にかけて実施されたJICAプロジェクトでは、雲を透過する日本の衛星画像を既存の衛星モニタリングシステムに組み込んだ森林伐採検知技術が確立されました。2021年から開始されたMORIプロジェクトでは、日本の衛星技術とAI技術を組み合わせることで、違法伐採検知の精度向上や違法伐採予測のプロトタイプ構築が実現しました。いずれのプロジェクトでも、ブラジル環境・再生可能天然資源院は、アマゾン森林伐採を取り締まる責任機関としてプロジェクトをリードし、豊富な知見を踏

まえた貢献により、プロジェクトを成功に導いています。今後も、気候変動対策の推進に資するアマゾン違法森林伐採抑止の分野において、日本とブラジルの協力関係が深まっていくことを期待しています。

改めて、ヴォルネイ・ヴォルフ氏及びブラジル環境・再生可能天然資源院の御功績に敬意を表し、また、御家族、同僚の皆様をはじめ、協力してこられた関係者の皆様に感謝しつつ、今回の受賞をお祝い申し上げます。

(了)